

氏名	加藤 宣 博
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 4 3 号
学位授与の日付	昭和38年 4 月13日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	大腿深動脈特に貫通動脈及び大腿背側の動脈分布について
論文審査委員	教授 大内 弘 教授 尾曾越文亮 教授 小川勝士

学 位 論 文 内 容 要 旨

大腿深動脈特に貫通動脈の定義、数、分布については曖昧な点が多い。著者は成人屍69体125例についてこれを観察し、併せて大腿背側の筋の動脈分布を明らかにした。

著者は先ず従来の成書の記載と自己の観察所見とを勘考して第一（Ⅰ）、第二（Ⅱ）及び第三（Ⅲ）貫通動脈の適切な定義を明確にし、又従来広義の貫通動脈として混同されているものを「上及び下内側貫通枝」として区別した。

その結果Ⅰ、Ⅱが2本以上出現することは稀ではなく、Ⅲは2本又は3本存在するのが普通であり、貫通動脈の総数は大内転筋を貫く所で数えると平均4.66本となり、一般に考えられているよりも多い。

貫通動脈の起始型は4型に大別出来るが、大腿深動脈の第1枝、第2枝及び第3枝以下がそれぞれⅠ、Ⅱ、Ⅲとなる第Ⅰ型が正常である（72.0%）。又稀ではあるが大腿動脈下部乃至膝窩動脈から起る第Ⅲ貫通動脈を発見した。

Ⅱ及びⅢは、主として大腿二頭筋短頭及び外側中間広筋に分布し、「上及び下内側貫通枝」は屈筋の一部に分布し、又屈筋の上下端部は他の動脈からも小枝をうける。Ⅰの上行枝は大殿筋下縁附近に分布するが、主枝は下行して大腿屈筋の主動脈となる。所がⅠの下行枝が弱い又は欠如して、これをⅡ又は「下内側貫通枝」が代償する場合がある。これを目標として大腿背側の動脈分布を第Ⅰ貫通動脈の発達した正常型（59.2%）と

準正常型 (15.2%), 下内側貫通枝発達型 (11.2%), 第Ⅱ貫通動脈発達型 (6.4%) 及び混合型 (8.0%) の5型に分けることが出来る。

岡山医学会雑誌 第74巻 昭和37年12月30日発行

論文審査の結果の要旨

加藤宣博提出の「大腿深動脈特に貫通動脈及び大腿背側の動脈分布について」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

本研究は成人屍69体125例について大腿深動脈特に貫通動脈の数, 起始, 経路, 分布を詳細に剖検観察し, 併せて大腿背側の筋の動脈分布を明らかにしたものである。

貫通動脈の数は大腿内転筋を貫く所で数えると平均4.66本であって, 一般の記載に比して遙かに多く, 且変異も著しい。従って従来の曖昧な定義ではこれを区別することが出来ない。

著者はこれに適切な定義を与えてこれを出発点とし, 第Ⅰ—Ⅲ貫通動脈の数, 起始, 経路, 分布を明らかにした。

又大腿背側の動脈分布については, 変異の多い屈筋筋腹の動脈に注目して, これを第Ⅰ貫通動脈の発達した正常型と準正常型, 下内側貫通枝発達型, 第Ⅱ貫通動脈発達型, 混合型の5型に分けて考察している。

以上の通り本論文は新しい知見に富み, 学術上有益であり, 著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。